

平成29年度 舞鶴市総合教育会議

次 第

日時：平成29年5月29日（月）

10：00～11：30

場所：舞鶴市役所 第2委員会室

1 挨拶

2 報告事項

教育振興大綱の事業計画書について … 資料1

3 協議事項

別紙

4 その他

5 閉会

3 協議事項

協議テーマ

『子どもの夢・目標・志を育み、本市の将来を支える人材として育むためには、学校や行政、地域、家庭は何をなすべきか』

<論点>

- ☞ 本市で生まれ育つ子ども達が、ふるさと舞鶴の良さを知り、郷土愛を持つとともに、将来へ向けての夢や志を育むためには何が必要なのか。
- ☞ 保幼小中の切れ目ない教育の推進を図るため、舞鶴市乳幼児教育ビジョンを踏まえた取組や、小中一貫教育などの取組を進める中で、今後さらにどういった取組が必要なのか。
- ☞ 若手教員が多くなっている現状等を踏まえ、学校・教員に求められる教育力を、どのように向上させていくのか。
- ☞ コミュニティ・スクールの導入により、地域と学校がどのように連携を進めていくべきなのか。地域の教育力をどのように活かしていくか。
- ☞ 家庭の教育力を高めるうえで、親教育をどのように進めていくのか。
- ☞ 家庭の実情を踏まえ、学校と家庭とがどのようにつながりを深め、家庭支援を行っていくか。

舞鶴市総合教育会議出席者名簿

職 名	名 前
市 長	多々見 良 三
教 育 長	佐 藤 裕 之
教 育 委 員	荻 野 隆 三
	荒 木 穂 積
	南 賀 子
	岸 本 純 子
	富 川 唯 夫

<担当部署>

職 名	名 前
市長公室長	川端 常太
市長公室秘書課長	山本 仁士
政策推進部長	西嶋 久勝
政策推進部企画政策課長	松岡 幸治
健康・子ども部次長兼幼稚園・保育所課長	田中 昭
健康・子ども部子ども支援課長	新井 秀和
市民文化環境部長	飯尾 雅信
市民文化環境部地域づくり・文化スポーツ室長	岸本 淳子
教育委員会指導理事	廣瀬 直樹
教育振興部長	瀬川 治
教育振興部次長兼教育企画課長	浜野 滋
教育振興部教育企画課小中一貫教育推進担当課長 兼 学校教育課指導担当課長	井上 啓
教育振興部教育総務課長	小酒由美子
教育振興部教育総務課主幹	岸口 定史
教育振興部学校教育課長	森下 敏宏
教育振興部学校教育課主幹	高井 直樹

舞鶴市教育振興大綱 事業計画書

～ふるさと舞鶴を愛し夢に向かって将来を切り拓く子ども～

平成29年5月 改定版

2016年(平成28年)6月

京都府舞鶴市

目次

舞鶴市教育振興大綱の概要	1
具体的な事業・取組	
1. 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進	
(1) 切れ目ない教育の推進	2
(2) 質の高い幼児教育の推進	3
(3) 個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実	4
(4) 心身ともに健全な子どもの育成	6
2. 子どもを育てる教育環境の充実	
(1) 教師等の資質能力の向上	8
(2) 学校等における教育環境の充実	9
(3) 高等教育機関等との連携の推進	10
3. ふるさとを愛する教育の推進	
(1) ふるさと学習の推進	11
(2) グローバル化社会に対応する教育の推進	12
4. 地域社会で支える教育と子育て支援の充実	
(1) 地域との連携による教育・子育て支援の推進	13
(2) 社会活動団体との連携の推進	15
5. 心豊かな生涯学習の推進	
(1) 市民の学習活動の推進	16
(2) 市民スポーツの推進	18

舞鶴市教育振興大綱の概要

大綱の策定要旨

- 舞鶴市教育振興大綱は、市長と市教育委員で構成する「舞鶴市総合教育会議」において協議し、定めたもの。
- 将来を担う子ども達を育む本市教育の基本的な方針であり、本市が目指す「育てたい子ども像」や「教育の基本理念」、「施策の基本方針」からなる。

大綱と事業計画の位置付け

新たな舞鶴市総合計画
(平成23～30年度)

舞鶴市教育振興大綱
(平成27～30年度)

教育の重点
(各年度)

年度ごとに重点目標を定めるもの

事業計画

(平成27～30年度)

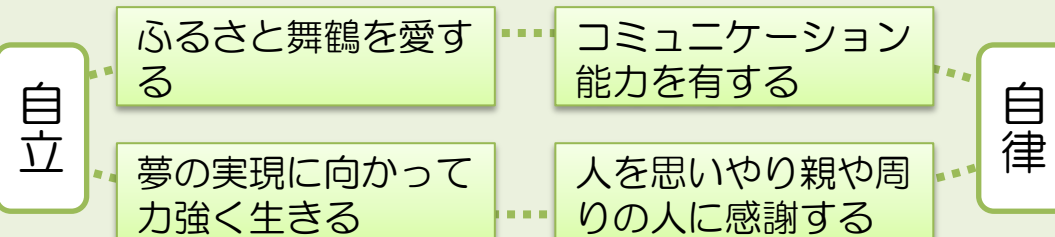
計画期間の主要施策と目標数値による進捗管理

育てたい子ども像と基本理念、基本方針

育てたい子ども像

ふるさと舞鶴を愛し 夢に向かって将来を切り拓く子ども

育みたいこと



基本理念

0歳から15歳までの切れ目ない質の高い教育の充実

5つの基本方針

1. 生きる力を育み子どもの夢をかなえる教育の推進
2. 子どもを育てる教育環境の充実
3. ふるさとを愛する教育の推進
4. 地域社会で支える教育と子育て支援の充実
5. 心豊かな生涯学習の推進

基本施策(1)

切れ目ない教育の推進

0歳から15歳の子どもの成長の視点に立ち、成長に合わせた円滑な教育の流れを構築するため、0歳から就学前の乳幼児期と義務教育9年間で、切れ目のない一貫した教育の期間として捉え、教育内容の充実をはじめ、いわゆる“小1プロブレム”や“中1ギャップ”の解消等に向け「保幼小中の連携」や「小中一貫教育」の実施など切れ目のない教育を推進します。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
子ども・若者支援会議運営事業	0歳から概ね20歳までの切れ目ない育成支援のあり方や子どもを取り巻く今日的課題への支援を総合的・計画的に推進するための会議を設置	事業費	—	670	657	800
乳幼児教育ビジョン推進事業	0歳から就学前の乳幼児期において、小学校以降の学びや育ちの土台を身に付ける乳幼児教育の充実に取り組む	事業費	5,283	8,812	8,480	7,400
		保幼小連携に取り組む小学校区数	—	18校	18校	18校
小中一貫教育推進事業	学力向上と学校生活への適応(中1ギャップの解消)に向け、義務教育課程のシームレス化を図る小中一貫教育を推進する。当事業では、モデル校区の取組を支援するため、指導主事による指導・助言、乗入授業支援、小小連携・小中連携支援等を行う	事業費	1,045	6,828	7,162	9,000
		小中一貫教育に取り組む中学校区数	—	2校区	4校区	7校区
		授業がよくわかると回答した子どもの割合	小学校 83.4% 中学校 76.3%	小学校 81.5% 中学校 72.4%	小学校 87.0% 中学校 80.0%	小学校 80.0%超 中学校 80.0%超

基本施策(2)

質の高い幼児教育の推進

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培ううえで大変重要であるため、本市における幼児教育のビジョンを策定し、幼稚園や保育所（園）における0歳から就学前の乳幼児期に求められる主体性や自主性を養う教育の充実など、さらに義務教育段階へとつながる質の高い幼児教育の充実を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
乳幼児教育ビジョン推進事業 (再掲)	【ビジョンの周知】 家庭・地域等に向けたビジョン通信 (ニュースレター)の作成、説明会・講演会等の開催 【推進体制づくり】 乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議の設置 【保幼小接続カリキュラム策定】 策定会議の設置 【乳幼児教育の質の向上研修】 公私立の保育者・教員が共に講師の指導を受け学ぶ	事業費	5,283	8,812	8,480	7,400
		説明会・講演会等の開催	—	8回	6回	3回
		保育者・教員研修の開催	—	16回	14回	8回
保育の質の向上に係る保育士確保支援事業費補助	私立保育所における保育の記録・園内研修、情報発信等の時間を確保するため、加配保育士の費用を一部支援	事業費	—	6,388	8,640	11,500
		配置を行う保育園の数	—	8園	12園	12園

基本施策(3)

個性を伸ばし夢をかなえる学校教育の充実

一人ひとりが、夢を育み夢を実現するための目標を持ち、自らの将来を切り拓いていこうとする、自立するたくましい子どもを育てる教育環境の充実を図ります。そのため、夢チャレンジ事業の取り組みなど学力の充実・向上や一人ひとりの特性や能力を伸ばす個々に応じた教育の推進、さらに特別支援教育の充実や貧困家庭への対応等を推進し学校教育の充実を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
夢チャレンジサポート事業	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校各学年統一の学力診断テストを実施(市独自) ・英語検定にチャレンジする意欲のある生徒に検定料を支援 ・将来の夢を考えるきっかけとするため外部講師による講演会を実施 ・教員OB等による支援員を配置し、個に応じたきめ細かな対応を行う ・学習用プリント教材の配信サービスの導入により、個々の学力課題に応じたプリントを作成し学習指導を行う 	事業費	20,884	23,669	24,544	24,642
		将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学校 69.6% 中学校 38.9%	小学校 65.6% 中学校 39.0%	小学校 76.0% 中学校 65.0%	小学校 80.0% 中学校 80.0%
いじめ・不登校対策事業	不登校児童生徒に対し、学校生活への復帰と社会的自立を支援するため、教育支援センター(明日葉)に相談員やカウンセラーを配置し、学力の補充や生活習慣の改善等のための相談、適応指導を行うほか、野外活動(チャレンジアウトドアライフ事業)を実施	事業費	18,206	18,074	18,392	18,555
		不登校の出現率	小学校 0.56% 中学校 3.08%	小学校 0.66% 中学校 2.90%	小学校 0.40% 中学校 2.75%	小学校 0.31% 中学校 2.63%

主要施策（つづき）

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
保育所発達支援事業費補助	園児の発達を支援するために加配する、発達支援保育士の費用を一部支援	事業費	32,783	28,286	30,884	47,975
		加配保育士を配置する保育園の数	10園	9園	12園	12園
私立幼稚園すくすく育成補助	園児の発達を支援するために加配する、発達支援保育士の費用を一部支援	事業費	19,545	16,887	16,725	16,725
		加配教員を配置する幼稚園の数	7園	7園	12園	12園

基本施策(4)

心身ともに健全な子どもの育成

乳幼児期からの遊びなど多様な運動経験や、小学校における学校体育等を通して12歳頃までには自らの身を守る基礎となる運動能力を身に付けるとともに、中学校の部活動等によるスポーツを通しての体力づくりを推進します。

また、幼いころから様々な人との関わりの中での体験や、人権教育・道徳教育の推進により相手を思いやり、親や周りの人に感謝する豊かな人格の形成を図るとともに、正しい生活習慣を身に付けるための食育を推進するなど、元気でたくましい知・徳・体のバランスのとれた健全な子どもの育成を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
子育て交流施設「あそびあむ」管理運営事業	天候に左右されず、子どもへの豊かな遊び体験を提供するとともに、子育てに関する相談、情報発信等を実施	事業費	18,732	20,330	24,221	24,211
		利用者数	平日平均 138人/日 土日祝日平均 304人/日	平日平均 170人/日 土日祝日平均 341人/日	平日平均 150人/日 土日祝日平均 300人/日	平日平均 150人/日 土日祝日平均 300人/日
子どもに関わる総合的な相談支援事業	妊娠期から子育て期を中心に、18歳までの子どもに関わる総合的な相談支援やニーズに応じた情報等をワンストップで提供する	事業費		15,055	17,871	17,871
		相談件数		30件/日	30件/日	30件/日

主要施策（つづき）

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
いじめ・不登校対策事業 (再掲)	教育支援センターにいじめ相談室を併設し、相談員を配置。いじめ相談ダイヤル等により、きめ細かな相談・対応を行う	事業費	18,206	18,074	18,392	18,555
		不登校の出現率	小学校 0.56% 中学校 3.08%	小学校 0.66% 中学校 2.90%	小学校 0.40% 中学校 2.75%	小学校 0.31% 中学校 2.63%
体力・運動能力、運動習慣向上事業	全国体力・運動能力、運動習慣等調査を通じて、基礎的な運動能力の習得や部活動等の指導を実施	事業費	—	—	—	—
		全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点(平均点)	小学5年生 男子:54.71点 (全国 53.80点) 女子:56.72点 (全国 55.18点) 中学2年生 男子:42.15点 (全国 41.89点) 女子:49.82点 (全国 49.08点)	小学5年生 男子:54.74点 (全国 53.92点) 女子:55.74点 (全国 55.54点) 中学2年生 男子:42.71点 (全国 42.13点) 女子:49.60点 (全国 49.56点)	毎年度 全国の平均点を上回る	毎年度 全国の平均点を上回る
競技力向上対策助成	各中学校へ運動部数、生徒数に応じて助成。府、近畿、全国大会出場者に交通費・宿泊費を補助	事業費	6,087	6,509	6,748	6,665
		全国大会出場者数	4人	11人	平成28年度 実績を上回る	平成28年度 実績を上回る
学校給食運営事業 (小・中学校)	安心・安全で、栄養バランスのとれた魅力ある給食を全小中学校で実施	事業費	338,103	328,473	337,582	345,784
		朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校 87.5% 中学校 80.3%	小学校 85.6% 中学校 79.1%	小学校 95.0% 中学校 95.0%	小学校 100.0% 中学校 100.0%

基本施策(1)

教師等の資質能力の向上

子どもの能力や個性を伸ばすとともに健全な成長を支えるため、教育的愛情、使命感と情熱、豊かな感性を持ち、人間的魅力にあふれる指導者の育成を図るとともに、教師や保育士等教育に携わる者の研修等の充実により資質能力の向上を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
乳幼児教育ビジョン推進事業 (再掲)	「子どもを主体とした保育」「保幼小連携」等について、公私立の保育者・教員が共に講師の指導を受け学ぶ	事業費	5,283	8,812	8,480	7,400
		保育者・教員研修の開催	—	16回	14回	8回
教員長期派遣研修事業	中学校教員を福井県教育委員会へ1年間派遣し、先進的な授業方法等を学び、派遣終了後に指導的教員として教員全体の授業力向上を図る	事業費	—	7,836	7,869	8,590
		長期派遣教員数	—	1名	1名	1名

基本施策(2)

学校等における教育環境の充実

急激に進展する高度情報化社会に対応するため、ICTを活用した教育環境の整備促進を図るとともに老朽施設等の施設整備の促進など、教育環境の充実を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
教育用コンピュータ整備事業 (管理費を含む)	校務用及び教育用パソコンを維持更新することで、情報通信技術を活用した教育環境を整備する	事業費	103,773	104,515	116,691	130,000
施設整備事業(幼稚園)	施設の損傷部分を修繕し、安全を確保する	事業費	2,019	406	0	0
		修繕等実施園	1園	1園	0園	0園
私立幼稚園施設整備費補助	施設の損傷部分を修繕し、安全を確保する	事業費	7,660	3,600	2,930	5,000
		修繕等実施園	6園	4園	5園	—
校舎等改修事業(小学校)	劣化施設を改修し、機能向上を行う	事業費	767	12,333	54,500	90,633
		改修工事施工学校数	設計1校	工事1校	工事1校	工事1校
校舎等改修事業(中学校)	劣化施設を改修し、機能向上を行う	事業費	4,149	33,661	293,511	5,290
		改修工事施工学校数	設計2校	工事2校 設計1校	工事1校	設計1校

基本施策(3)

高等教育機関等との連携の推進

市内の高等学校や専門学校等をはじめとする高等教育機関や教育に関わるすべての機関、各種団体等との連携を図るなど、義務教育以降における切れ目ない進路等についての支援を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
高等教育機関連携交流促進事業	地域に所在する高等教育機関等の連携強化を図るとともに、情報発信や連携事業を展開し、地域教育環境の向上、地元就学の促進等による地域活性化を図る	事業費	888	554	916	1,200
		高等教育機関等と連携した小中学生等を対象とする取組数	6	9	3	4
育英資金支給事業	経済的理由により、高等学校、高等専門学校、大学等への修学困難な学生に対して、修学に必要な学資金を支給する	事業費	15,542	15,299	18,268	18,654
		ふるさと舞鶴で就職したいと思う学生				

基本施策(1)

ふるさとと学習の推進

引揚げをはじめ本市の特色ある歴史、文化や豊かな自然について、本市独自の絵本や副読本、さらには野外活動等を通して身近に学ぶことにより、また、本市が果たしている港湾機能等の多様な役割や主要な産業などについて、インターンシップなどの体験活動を通して学ぶことにより、ふるさとを愛し、ふるさにと誇りを持つ教育の推進を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
「市長のふるさと舞鶴講義」の開催	将来に夢を持つことの大切さや、ふるさと舞鶴の魅力について、市長が中学生に講義を行う	事業費	—	—	—	—
		市長講義を実施する中学校数	2校	6校	7校	7校
特色ある教育活動支援事業費補助(小・中学校)	【教育活動支援事業】 総合的な学習の時間、体験活動、野外活動、クラブ活動、部活動において、地域人材を活用した特色ある教育活動を支援(小学校6年生では引揚記念館を見学し、ふるさと学習を実施など) 【地域ふれあい体験活動事業】 地域や学校の実態に応じて創意工夫し、職場体験、世代間交流、福祉職場体験、農業体験、伝統的文化活動などを実施	事業費	7,281	7,011	7,757	7,853
		ふるさと舞鶴への誇りと愛着を持つ児童生徒				
夢チャレンジサポート事業	【夢サポート事業】 各中学校の特色ある教育活動を支援 【夢講演会】 将来の夢を考えるきっかけとするため外部講師による講演会を実施	事業費	20,884	23,669	24,544	24,642
		将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	小学校 69.6% 中学校 38.9%	小学校 65.6% 中学校 39.0%	小学校 76.0% 中学校 65.0%	小学校 80.0% 中学校 80.0%

基本施策(2)

グローバル化社会に対応する教育の推進

あらゆる分野において、今後益々グローバル化が進展する中で、ふるさとへの誇りを持ちつつ、外国語活動の充実や国際交流、国際理解の取組みを推進するなど国際化社会で活躍できる人材の育成を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
英語指導助手(AET)設置事業	AET(7名)を配置し、小学校3~6年生を対象とした英語活動、中学校英語科の授業で指導助手を行う	事業費	33,567	33,567	34,000	33,567
		英語指導助手(AET)配置人数	7人	7人	7人	7人
英語の学習意欲向上に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> 英語検定にチャレンジする意欲のある生徒に検定料を支援(夢チャレンジサポート事業の一環) 英語スピーチコンテストの開催 	事業費	20,884	23,669	24,544	24,642
		英語検定にチャレンジする生徒の割合	29%	30%	31%	32%

基本施策(1)

地域との連携による教育・子育て支援の推進

都市化や核家族化が進行する中で、子どもの教育の原点である家庭の教育力の向上等家庭教育の啓発・推進はもとより、家庭・学校・幼稚園・保育所（園）・地域が連携し、地域ぐるみで子どもの教育と子育てを支援する環境の充実に取り組みます。このため、地域が学校を支援する活動や地域で子どもを育てる環境づくりを推進するとともに、PTA等関係団体とも協力し教育と子育て支援の連携を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
学校教育活動・運営状況の情報発信	オープンスクールウィークなどを活用し、学校の教育活動や運営状況を家庭・地域に積極的に情報発信する	事業費	—	—	—	—
		オープンスクールの来場者数	7,977人	9,088人	10,000人	12,000人
学校支援地域本部の設立支援	学校・家庭・地域の連携による小中一貫教育を推進するため、中学校区において学校支援地域本部の設置を促進する	事業費	100	200	400	700
		中学校区における学校支援地域本部の設置件数	1校区	1校区	4校区	7校区
コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の設置	地域とともにある学校づくりを推進するため、学校運営協議会の設置を検討・実施する。	事業費	—	—	330	450
		コミュニティ・スクール設置校数	—	—	8校	15校

主要施策（つづき）

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
京都府、PTAとの連携による家庭教育活動の支援	京都府の中丹はぐくみサポート会、舞鶴市PTA連絡協議会の研究大会等への支援を通じて、家庭教育力の向上を図る	事業費	—	—	—	—
放課後児童クラブ整備・運営事業	地域子育て支援協議会等に「放課後児童クラブ」の運営を委託し、児童の健全育成、仕事と子育ての両立支援を図る	事業費	88,197	101,496	101,765	101,765
		放課後児童クラブ数	26ヶ所	28ヶ所	28ヶ所	28ヶ所

基本施策(2)

社会活動団体との連携の推進

児童生徒が集団行動の中で規範を身に付けるとともに、心身ともにたくましさを養うため、海洋少年団やボーイスカウト等の健全育成を目的とする団体等をはじめ、児童合唱団やスポーツ少年団など文化・スポーツ団体等との連携を推進し子どもの健全な育成支援を図ります。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
舞鶴市レクリエーション協会補助	レクリエーション活動を通じて生涯学習・生涯スポーツの振興、社会教育活動の促進、青少年の健全育成等を図る団体への補助	事業費	80	80	72	72
		連携事業数	4	5	6	7
舞鶴市PTA連絡協議会補助	研究会などを通じて舞鶴市における好ましい教育環境の醸成と児童・青少年の健全育成に寄与している団体への補助	事業費	100	100	90	90
		研究会	年1回	年1回	年2回	年2回
社会体育団体支援補助金・スポーツ少年団育成助成	舞鶴市スポーツ協会・舞鶴市スポーツ少年団加盟団体に対して補助金等を支出し活動を支援	事業費	1,380	1,450	1,450	1,450
		助成団体数	15	16	16	16

基本施策(1)

市民の学習活動の推進

次代を担う子どもを育成し、また、市民自らが生涯にわたり学び、自らを高め生きがいのある人生を歩み続けることができるよう、誰もが心豊かに学習できる環境づくりを推進します。このため、高齢者等の生きがいづくりに資する文化的な活動の推進を図るとともに、世代間の交流等を通じて、高齢者をはじめ市民がこれまで学んだ知識や経験、技能を活かして地域で活躍できる環境づくりを推進します。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
生涯学習推進事業	さまざまな知識や経験を持つ市民を「まちの先生」に認定し、幅広く活躍できるよう支援	事業費	154	129	109	109
		登録者数	228	240	250	260
赤れんがパーク企画展開催事業	赤れんがパークで舞鶴の歴史・文化をテーマとした企画展を開催するとともに、テーマと関連した講師を招聘し講演会・シンポジウムを実施する	事業費		499	804	804
		企画展開催回数		1回	1回	1回
文学に親しむ講座	大学の先生等を講師に文学に関する講座や読書会を開催する	事業費	80	40	40	40
		文学講座開催回数	年2講座	年1講座	年1講座	年1講座
		読書会開催回数	月1回	月1回	月1回	月1回

主要施策（つづき）

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
おはなし会	子どもの年齢に応じた読み聞かせなどを行い、本に親しむ機会を提供する	事業費	88	88	67	67
		おはなし会開催回数	月3回	月3回	月3回	月3回
		読み聞かせ開催回数	月1回	月1回	月1回	月1回
読書週間行事・おたのしみ会	ボランティアとの協働による人形劇やエプロンシアター、図書を利用した工作教室、読み聞かせなど開催する	事業費	64	64	50	50
		おたのしみ会等開催回数	年6回	年6回	年6回	年6回
ブックトーク・貸出文庫	ブックトークは市内全小学校を対象に、貸出文庫は遠隔地の小学校を対象に実施する	事業費	0	0	0	0
		ブックトーク開催時間数	110時間	110時間	100時間	100時間
		貸出文庫貸出冊数	延べ1万冊	延べ1.1万冊	延べ1万冊	延べ1万冊
公民館等運営会議の開催	公民館等のより良い運営へ、市民や専門家から意見聴取を行う	事業費	0	0	0	0
		運営会議を実施する公民館等の数	7館	7館	7館	7館
生涯学習推進事業	公民館等において、成人や子供・若者、働き盛り世代等向けの講座や体験学習等を開催	事業費	4,520	4,519	4,575	4,575
		公民館の生涯学習講座の参加延べ人数	36,569人	36,204人	39,000人	40,000人
地元学事業「ふるさとに乾杯！見て歩き隊」	地域住民自らが、まち探検や座学などを通じてまちの魅力や課題等を学ぶ	事業費	252	100	100	100
		地元学事業に取り組む地区の数	2地区	4地区	6地区	7地区

基本施策(2)

市民スポーツの推進

市民の健康増進等を図るため、だれもが気軽に運動やスポーツができる環境づくりを推進し、生涯スポーツの振興を図るとともに、各種大会等スポーツイベントの充実に努めスポーツを通じた交流人口の拡大を図ることにより、スポーツによるまちづくりを推進します。

主要施策

主な事業・取組	事業・取組の概要	年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		事業費(千円)	実績額	実績額	予算額	予定額
		成果指標	実績	実績	目標	目標
赤れんが杯ジュニアスポーツ大会助成	子ども対象の遠方からの参加者を招く大会実施に対しての助成金を支出	事業費	564	600	1,200	1,200
		参加者数	687	1,492	1,200	1,400
スポーツ交流拠点づくり事業	オリンピック事前合宿等の誘致	事業費	4,555	397	6,492	2,000
スポーツイベント助成	市内での大規模大会開催に対して助成金を支出	事業費	900	1,900	300	700
		参加者数	4,000	3,628	1,200	4,600
赤れんがハーフマラソン開催事業	赤れんがハーフマラソンの開催	事業費	7,839	7,797	8,600	8,600
		参加者数	2,375	2,219	2,600	2,600
駅伝大会等開催事業	駅伝大会・綱引大会の開催	事業費	1,488	902	1,185	1,185
		参加者数	1,454	1,446	1,900	2,400
地域スポーツ振興助成	ちびっこソフトボール大会、地域運動会開催等に対して助成金を支出	事業費	640	620	1,000	1,000
		助成団体数	8	8	8	8
スポーツ教室開催事業	子ども対象のスポーツ教室を開催	事業費	3,664	3,996	4,000	4,000
		参加者数	1,648	894	2,500	3,000

年齢ごとの育ちの視点

ここでは、育てたい子ども像と基本理念の内容を、年齢発達に応じて記します。子どもの発達には個人差があります。年齢の表記は基準ではなく目安であり、内容は一定の方向性を示すものです。

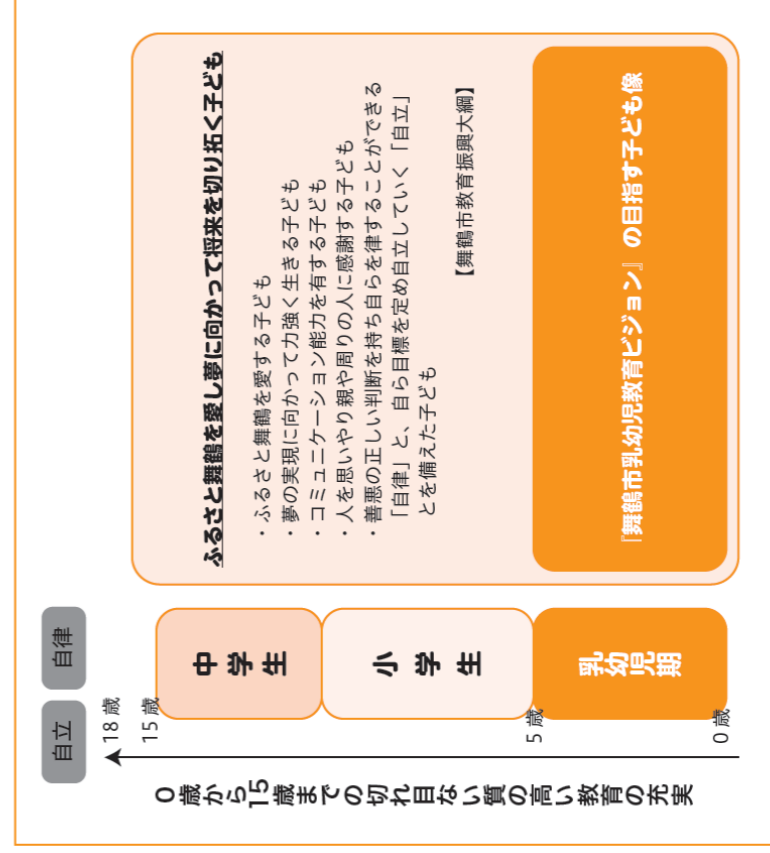
0歳頃	<p>【人として生きていく土台づくり】</p> <p>「おなかがいっぱい」「うれしい」「かかわってほしい」という思いを相手に伝えようとする自分の意思で、泣いたり、笑ったり、声を出したりする時期。</p> <p>周囲の大人は、その思いに応答的に関わり、だっこ等のスキンシップを通じて愛着を形成し、安心できる環境の中で眠り、食べ、遊ぶという心地よい生活リズムを大切にします。</p>
6か月～2歳頃	<p>【主体的に生きていく土台づくり】</p> <p>6か月～1歳半…座る、這う、立つ、歩くといった運動機能が発達する時期。周りのものや人への興味や関心が広がり、自ら「さわってみたい」「関わりたい」という意欲が芽生え、探索活動が活発になり、好奇心旺盛な時期。</p> <p>1歳半～2歳頃…なんでも「イヤイヤ」「自分で」という自我の芽生えの時期。</p> <p>できないからといって止めるよりも、子どもの意思を尊重し、見守りながら、困った時には展れる安心できる居場所（人）となることが大切です。</p>
2歳～3歳頃	<p>自我の芽生えから、「自分でやりたい」「聞いてほしい」「見てほしい」と、自己を主張する時期でもあり、なんでもやってみてみたい最も意欲的な時期。それぞれが、自分の好きな遊びを見つめ、集中して遊んでいるが、友達との遊びは意識している時期。</p> <p>子どもの意欲や主体性を尊重し、自分で遊ぶ、決める、自分の思いを伝えるという経験をすることが大切です。また、言葉を獲得し、語彙を増やしていくこの時期には、周囲の大人が子どもの思いや感動したことを言葉で表現し、子どもとの応答的なやりとりをすることが必要です。</p>
3歳～4歳頃	<p>【仲間と共に生きていく土台づくり】</p> <p>今までの大人との密着した関係から、自分とは違う他者（友達）に関心が向くようになり、「友達と同じことがしたい」という気持ちが芽生える時期。</p> <p>友達とイメージを広げながら、ごっこ遊びを楽しみ、身近な自然（水、土、砂、草花、虫など）に関わりながら、遊ぶことが大切です。</p>
4歳～5歳頃	<p>基本的な生活習慣も身につく、今までの経験を生かして、自分なりに考えたり、創意工夫したりする思考力が育つ時期。</p> <p>仲の良い友達との関係の中で、自分の思いを話したり、相手の思いを聞いたり、折り合いをつけたりする経験が大切です。友達とイメージを共有しながら、想像力を広げる遊びが大切です。一人ひとりの個性を認め、見守るように関わることが必要です。</p> <p>就学前にはひとつの目的に向かって、集団の中で友達と話し合い、協力し合う、協同的に取り組む体験が大切です。</p>

舞鶴市乳幼児教育ビジョンの概要

ビジョン策定の趣旨

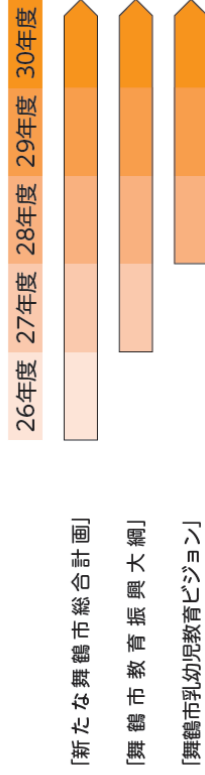
0歳から就学前の乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う極めて重要な時期です。しかし、子どもや子どもを取り巻く環境の急激な変化に伴い様々な問題が生じており、子育ての基本である家庭はもとより、地域・保育所・幼稚園・学校・行政等、市民が一丸となって取り組みを進めていくことが必要となることから、発達段階に応じた豊かな遊びや生活・体験の中で、乳幼児期の終わりまでに育ってほしい子どもの姿、乳幼児期に大切にしたいことなどを市民全体で共有するため、ビジョンを策定しました。

(1)位置づけ



(2)期間 3年（平成28年度～30年度）

「新たな舞鶴市総合計画」及び「舞鶴市教育振興大綱」と方針の整合を図り策定するため、期間は、平成28年度から平成30年度までとし、この3年間で市民の皆さんへの説明・普及を図り、平成30年度にビジョンの充実を図るための見直しを行います。



子どもに対する関わりの視点

家 庭	保育所・幼稚園	地 域
愛情やしつけなどを通して乳幼児の成長の最も基礎となる心身の基礎を形成する場	家庭での成長を受け、集団活動を通して、家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、教員等によって支えられながら、乳幼児期ならではの豊かさに出会う場	様々な人々との交流や身近な自然との触れ合いを通して豊かな体験が得られる場
一緒に遊ぶ、だっこ等のふれあう機会を持つ	スキンシップ等のふれあいや応答的なやりとりをする	温かく見守り、あいさつなどの声かけ・相談しやすい関係づくりなど、親子をサポートする
子どもの思いや意欲を尊重し、見守る、ほめる、認める	子どもの思いや意欲を尊重し、見守る、ほめる、認める	子どもが地域の自然・文化等に触れる体験の機会を提供する
早寝早起き、食事等の基本的な生活習慣を確立する	子どもの興味・関心を起点として、環境（人・もの）や自然と関わりながら遊ぶ	地域行事（祭り等）への参加を通して親子と地域住民との世代を超えた交流をする
だっこ等のスキンシップを通して愛着形成	大人の愛着・信頼関係の形成	
心地よさが感じられる、信頼していることが感じられる安心・安定できる居場所になる	自分の思いを話す、相手の思いを聞くなど、友達と関わりながら遊ぶ	
一緒に遊ぶ、会話をする	友達と話し合い、協同的に取り組む体験をする	
一緒に遊ぶ、会話をする	友達と話し合い、協同的に取り組む体験をする	
3歳～4歳頃	3歳～4歳頃	
4歳～5歳頃	4歳～5歳頃	

舞鶴市乳幼児教育ビジョン体系図

育てたい子ども像

- 主体的に取り組む子ども
- 自分も友達も大切にする子ども
- 意欲的に遊ぶ子ども

育てたい力

- 「ほく、わだし」
- 主体的・意欲的な自分
- 自己決定力
- 自己表現力
- 自己調整力

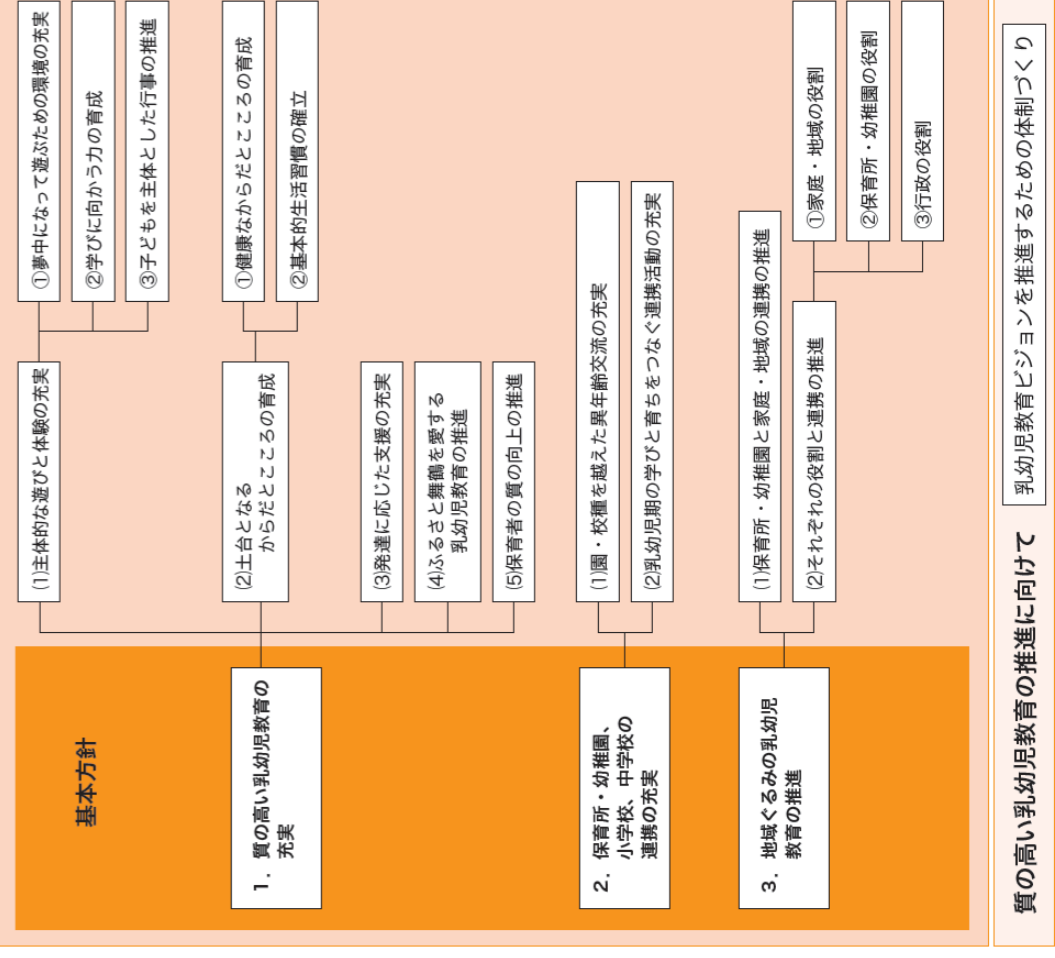
育てたいところ

- 安心感
- 信頼感
- 達成感
- 自己肯定感
- 自己有能感
- 自己有用感

基本理念 主体性を育む乳幼児教育の推進 ～みんながびびり育む舞鶴の子ども～

主体性の育成

自己を肯定するところの育成



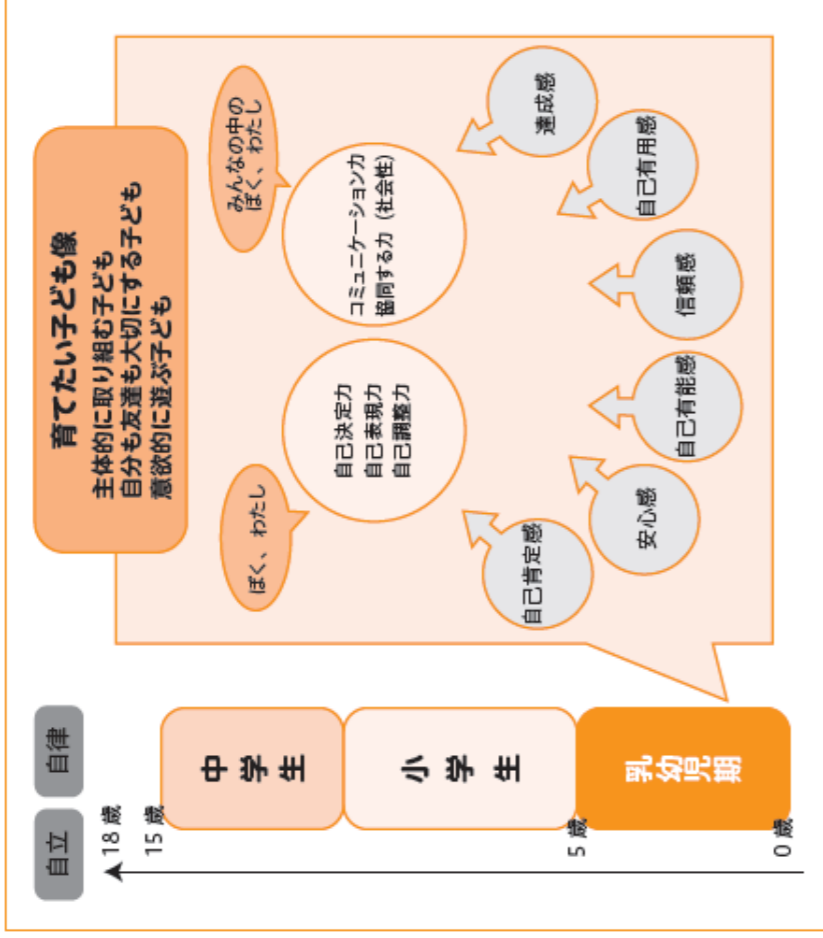
質の高い乳幼児教育の推進に向けて

乳幼児教育ビジョンを推進するための体制づくり

育てたい子ども像と基本理念

1 育てたい子ども像と育てたい力、育てたいこころ

本市では、「主体的に取り組む子ども」、「自分も友達も大切に育てる子ども」、「意欲的に遊ぶ子ども」の3つを育てたい子ども像として掲げ、自己決定力、自己調整力、コミュニケーション力の育てたい力と安心感、信頼感、自己肯定感等の育てたいこころを育み、将来、自分で生きていく、自分で考えて行動していくという二つの「自立・自律」を備えた子どもを育成します。



①主体的に取り組む子ども

自分で考え、判断し、行動する「自己決定力」、自分の思いや考えを伝える「自己表現力」、集中し、根強く取り組み、工夫し、見通しを持つ「自己調整力」を育み、自らが主体となり、遊びや生活等すべてにおいて主体的に取り組む子どもを育成します。

「ぼく、わたし」とは…主体的・意欲的な自分

【育てたい力】

- ◆ 自分で考え、判断し、行動する力「自己決定力」
- ◆ 自分の思いや考えを伝える力「自己表現力」
- ◆ 集中し、根強く取り組み、考え工夫し、見通しを持つ力「自己調整力」

2 基本理念

主体性を育む乳幼児教育の推進

～みんなが遊び育む舞鶴の子ども～

「育てたい子ども像、力、こころ」で示した姿を実現するために、家庭・地域・保育所・幼稚園・小学校・中学校・行政等、子どもを取り巻く全員が認識を共有し、「主体性を育む乳幼児教育」を推進します。

(1)主体性の育成

① 自己決定力、自己表現力、自己調整力の育成のために大切にしたい関わり

子どもをたった一人のかけがえのない存在としてありのままを受け止め、よいところを見つけ、ほめることが大切です。一人ひとり違っていい、いろんな子がいて楽しいと感じられるよう、子どもへの理解を深め、個々の個性やよいところ、得意なところを伸ばすように関わります。

子どもは、興味や関心を持つと「やりたい」「やってみたい」と自分から関わろうとします。その気持ちを尊重することが意欲を育てます。また、自分で考えて行動するために、周囲の大人の指示や命令の言葉で行動するのではなく、子ども自身が気付けるような関わりや声かけが必要です。

やりたい気持ちを尊重し、意欲を育て、自分で行動するために、周囲の大人は、言い過ぎない、答えを言わず見守る、自分で気付けるようなヒントを与えるなど、主体性を尊重した関わりを目指します。また、子どもは、年上の人に対する憧れと信頼の気持ちを持って大人を見ています。「おはよう」等のあいさつ、「ありがとう」の感謝の気持ち、「ごめんね」の謝罪の気持ちは大人がモデルとなって、子どもに示し、大人自身が、ルールや約束、マナーを守ることを目指します。

② コミュニケーション力、協同する力（社会性）の育成のために大切にしたい関わり

自分の思いや考えを話すためには、周囲の大人が、子どもの言葉に耳を傾け、応答的にやりとりすることが大切です。伝えたい人、聞いてくれる人、応えてくれる人がいるから、子どもは話そうとします。伝えたい気持ちはコミュニケーション力の土台でもあります。また、相手の思いを聞くということは、自分が聞いてもらったという経験や体験がなければ、難しいことです。

自分の思いや考えを話したり、相手の思いを聞いたり、話し合いの機会を持ち、保育所・幼稚園での友達同士や集団の中で、お互いが認め合うよう、一人ひとりのよいところや得意なこと、発見したことや行動したことを周りに発信することにより、一人ひとりが輝く場面をつくっていきます。

また、集団生活の中のルールや約束があることは理解していても、適応できるかどうかは年齢・発達や個人差によるところもあります。大人に決められたルールや約束よりも、自分たちで話し合っ決めてた約束の方が主体的に意識もでき、より守ろうとします。

②自分も友達も大切に育てる子ども

自らの主体性を尊重され大切にされた子どもは、自分も大切にし、友達の主體性も尊重し、大切にすることができます。友達との遊びや体験の中で、人と関わりながら、あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」、ルールや約束を守ろうとする（規範意識）、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力（社会性）」を育みます。

コミュニケーション力や協同する力を育み、自分も友達も大切に育てる子どもを育成します。

「みんなの中のぼく、わたし」とは…友達や集団の中の主体的・意欲的な自分

【育てたい力】

- ◆ あいさつをする、感謝や謝罪等の自分の思いや考えを伝える、相手の思いを聞く、話し合うという「コミュニケーション力」
- ◆ ルールや約束を守ろうとする（規範意識）、認め合う、友達を思いやる、自分の気持ちをコントロールしようとする「協同する力（社会性）」

「みんなの中のぼく、わたし」が、共通の目的に向けて友達と力をあわせながら、協同的に遊ぶ体験を通して、学びに向かう力（意欲、集中力、持続力等）を育みます。

③意欲的に遊ぶ子ども

これら「ぼく、わたし」、「みんなの中のぼく、わたし」は行きつ戻りつ、相互作用し合いながら育っていきます。興味や関心を持って、様々な物や人、自然現象等（環境）と関わりながら、意欲的に遊ぶ子どもを育成します。

そして、育てたい子ども像、育てたい力を育むためには、安心できる居場所や信頼できる人と「安心感」「信頼感」を育てることが大切です。また、やりたいことをやる中で「達成感」を感じ、自分のことが好きと感じる「自己肯定感」、自分もできる、やればできると感じる「自己有用感」、自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」を育むことが大切です。

「ぼく、わたし」「みんなの中のぼく、わたし」の力を育む基盤となるこころを育てます。

【育てたいこころ】

- ◆ 安心できる居場所で「安心感」を抱くこと
- ◆ 信頼できる人と過ごす中で「信頼感」を持つこと
- ◆ 自分のやりたいことをやる中で「達成感」を感じること
- ◆ 自分のことが好きと感じる「自己肯定感」
- ◆ 自分もできる、やればできると感じる「自己有用感」
- ◆ 自分が人の役に立った、人から認められたと感じる「自己有用感」

ルールや約束を守るという気持ち（規範意識）を育てるために、ルールや約束を守ることは気持ちがいい、友達との遊びもより楽しくなるという経験や、どうしたら守られるかを、みんなで話し合う機会を持ちます。

加えて、人に強要されて我慢するのではなく、自分から気持ちをコントロールする経験が必要です。集団の中でのけんかやトラブルはチャンスととらえ、相手の気持ちに気づき、よいこと悪いことを判断する機会にし、自分の気持ちに折り合いをつけ、我慢をしなければならぬ経験も大切にします。

(2)自己を肯定するこころの育成

①自己肯定感、自己有用感、達成感の育成のために大切にしたい関わり

「自己肯定感」を高めるためには、一人ひとりのよいところを見つけ、ほめることが大切です。また、ほめられることで、「自分もできる、やればできる」という「自己有用感」を感じ、自分に自信を持つことにつながります。

やりたいことが自分なりにうまくいき、満足でき、周囲の人に認められることで「達成感」が得られます。さらに、「人の役に立つ自分、人に認められる自分」という「自己有用感」を感じることができます。この「誰かのために…」という気持ちは、将来、地域やふるさとのために役立ちたいという気持ちにもつながります。

子どもをほめたり、認めたりする関わりをすすめ、主体性を育成するための基盤となる「自己肯定感、自己有用感、達成感」を育てます。

②安心感・信頼感と愛着形成の確立

愛着とは、人と人との間で形成され、相手と一緒にいることを望み、一緒にいることで大きな安心感、満足感を感じられる関係とされています。愛着には、自分が働きかけると相手が応えてくれ、心地よさを与えてくれるという「相互的な関係」と、自分は周囲に温かく受け入れられているという「情緒的満足感」、だっこやスキンシップ等の「身体接触的関係」という要素が不可欠です。

子どもの心の健全な育成のためには適切な「愛着」形成が重要であり、将来にわたる人への信頼感の出発点となります。

周囲の大人との信頼関係を深めるためには、信頼されていることが子どもにも感じられるように見守ることや、「失敗しても大丈夫」「間違えてもいいんだよ」とありのままを受け止めることにより、安心して何でも言える雰囲気づくりに努めるなど、(1)「主体性の育成」で示した関わりを大切にすることがあります。

家庭では、一緒に遊ぶ、子どもとの会話を心がける、ほめる、時間は短くてもふれあう機会（手をたないで歩く、抱っこをする等）を持つなど、各家庭に合ったつながり方を大切にし、安心・安定できる居場所となることを目指します。また、保育所・幼稚園では、一人ひとりの子どもの思いや言葉を受け止め、保育者との愛着・信頼関係を築き、子どもが安心して過ごせる居場所となることを目指します。

文部科学省調査研究委託「幼児教育の推進体制構築事業」

舞鶴市 平成29年度 乳幼児教育ビジョン推進事業

事業全体

- 乳幼児教育ビジョン推進事業 全体会・報告会
- 乳幼児教育フォーラム
- ・近隣市町村、委託研究自治体へ広報

乳幼児教育ビジョンの周知

- 講演会、説明会等の開催
- ビジョン通信の発行
- ・家庭向けにビジョンの内容をわかりやすく発信

乳幼児教育の質の向上研修 対象: 保育所・幼稚園、小学校

全体講師: 北野幸子准教授[神戸大学大学院]

子どもを主体とした保育

- 講師: 北野幸子准教授
(神戸大学大学院)
- ◇公開・カンファレンス
 - ◇講義(ドキュメンテーション 保育リーダーの役割 他)
 - ◇グループワーク(ドキュメンテーション 公開保育の記録をもとに 他)

保幼小連携

- 講師: 木下光二教授
(鳴門教育大学大学院)
- ◇講義、グループワーク
 - ◇公開・カンファレンス
 - ◇小学校教育研究会生活科部
夏季研究会合同研修会 他

乳幼児教育センター・コーディネーター機能研究

- 行政による乳幼児教育の拠点機能研究
- 乳幼児教育の実践と専門家による研究等
各分野をつなぐコーディネーターの育成研究

保幼小接続カリキュラム 策定研究

講師: 溝邊和成教授
(兵庫教育大学大学院)

○カリキュラム策定会議

- ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の保育者・教員代表
- ・0-15歳を切れ目なくつなぐ
保幼小中連携カリキュラム
「まいづる015」(仮)の検討
- ・事例の収集・研究

○保幼小中連携研修

- ・全園・全校対象

乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議

文部科学省の調査研究委託事業の実施について、研究推進体制の検討、研究結果の分析やとりまとめ、普及等の意見を聴くため設置するもの

平成28年度総合「ふるさと」に係るふるさと学習の取組実績

【対象：小学6年生、中学2年生】

小学校名	小学6年生 ふるさと学習 (舞鶴引揚記念館見学)	
	実施日	人数
新舞鶴	11月28日	91
三笠	11月8日	24
倉梯	9月23日	77
倉梯第二	10月24日	48
与保呂	11月24日	23
志楽	11月7日	63
朝来	10月18日	36
大浦	10月25日	9
中舞鶴	10月24日	47
明倫	11月25日	53
吉原	11月22日	7
余内	11月10日	63
池内	11月29日	13
中筋	10月14日	110
福井	11月22日	24
高野	10月26日	36
岡田	11月29日	12
由良川	11月29日	4

「ふるさと学習」に関するその他の取組

- ①漁業の学習
京都府漁連、かまぼこ製造工場の見学
(小学校3年生)
- ②農業の学習
田植え・稲刈り体験、万願寺甘とう等の特産物の学習、加佐地域の小学校では茶摘み等の収穫体験
- ③歴史の学習
史跡、建造物等の見学、地域の祭事に参加
- ④副読本「わたしたちのまち舞鶴市」
小学3・4年生の社会科学習に活用

中学校名	中学2年生 ふるさと学習 (職場体験)			
	実施日	人数	事業所数	主な事業所
青葉	5月19日～20日	217	47	幼稚園・保育所、スーパー・小売店
白糸	5月25日～26日	141	47	幼稚園・保育所、スーパー・小売店
和田	10月12日～13日	42	18	官公庁、飲食店、スーパー
城南	10月5日～6日	159	42	官公庁、飲食店、スーパー・小売店
城北	9月28日～29日	119	36	官公庁、飲食店、スーパー・小売店
若浦	5月25日～26日	46	15	飲食店、病院、スーパー
加佐	6月23日～24日	24	11	病院、保育園、官公庁

舞鶴市におけるコミュニティ・スクール(学校運営協議会)の方向性 【平成29年度～】

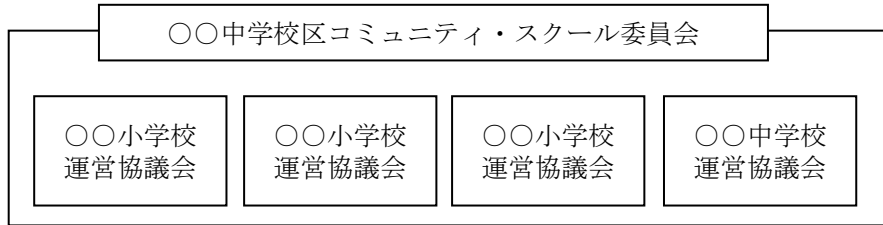
小中一貫教育をより効果的に進めるため、学校・家庭・地域が教育目標や課題等を共有し、熟議（熟慮と議論）を重ねることにより、地域ぐるみでより良い教育環境づくりを進めるための手法の一つとして、学校運営協議会の設置を推進

設置

- ▶ 趣旨が達成できると認められる場合、市教育委員会が協議会を置く学校を指定
- ▶ 小中一貫教育と連動した地域による学校支援を期待しているため、小中一貫教育モデル校区から順次導入

↓
29年度は城北・加佐校区に導入

各学校に設置後、中学校区による協議会の意見交換の場として、「コミュニティ・スクール委員会」を開催



協議会委員

校長の推薦により市教育委員会が任命

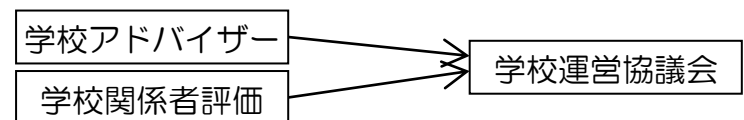
構成	保護者、地域住民、校長、教職員、学識経験者、その他教育委員会が適当と認める者
定員	各校10人以内（校長・教職員含む）



機能・役割

- ① 校長が作成する教育目標、教育課程の編成、学校経営計画等の基本方針の承認
- ② 校長又は教育委員会に対して、学校運営に関する意見を述べる
- ③ 学校の運営状況について点検及び評価を行う

※ 現行の「学校アドバイザー」と「学校関係者評価」を協議会へ機能集約し、『学校経営計画への意見と承認 ⇒ 点検・評価 ⇒ 反映・改善』という一連のサイクルを一元化

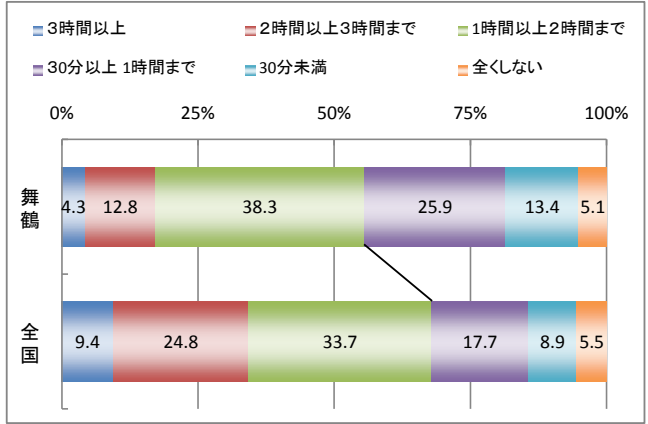
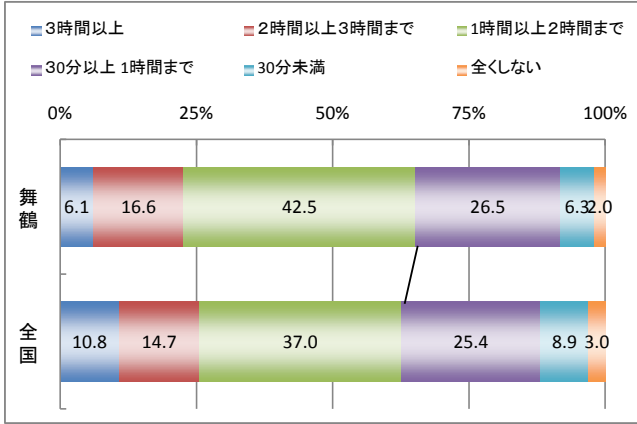


(2) 児童生徒質問紙より

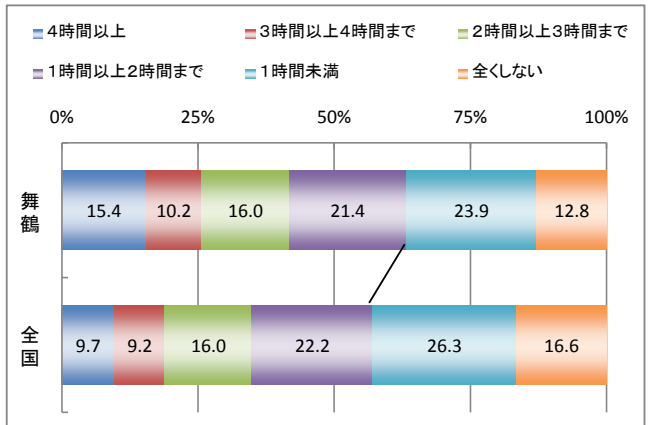
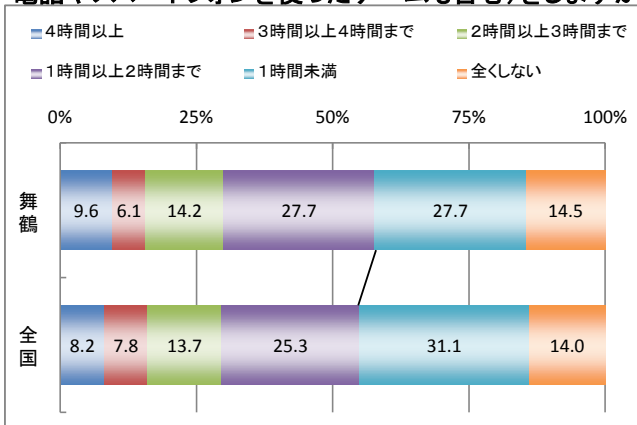
小学校

中学校

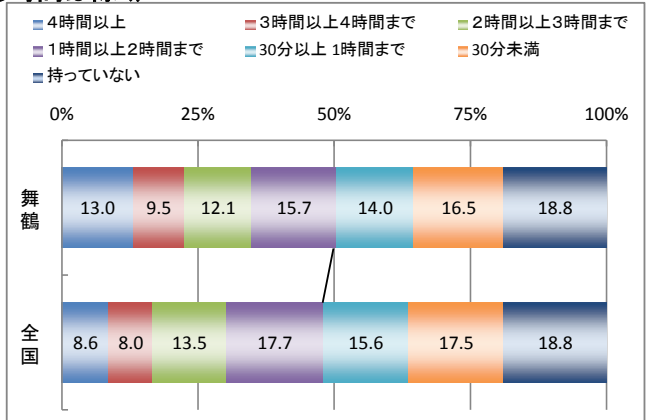
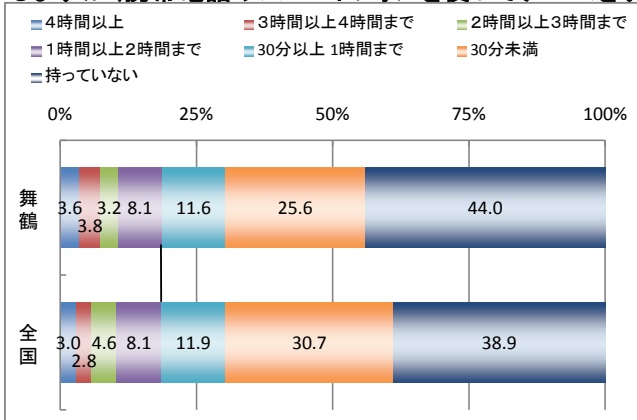
学校の授業以外に、普段(月～金曜日)1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師を含む)



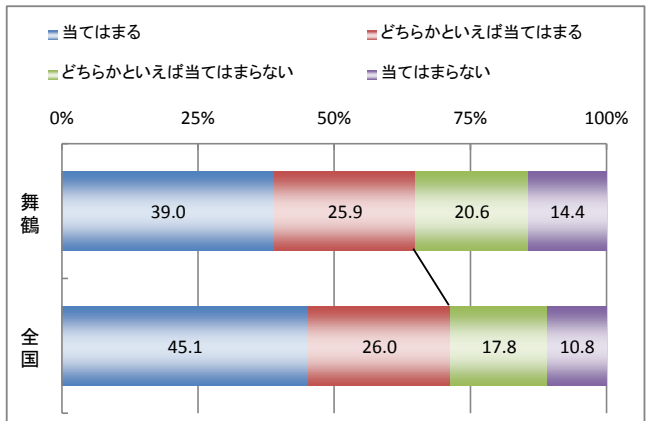
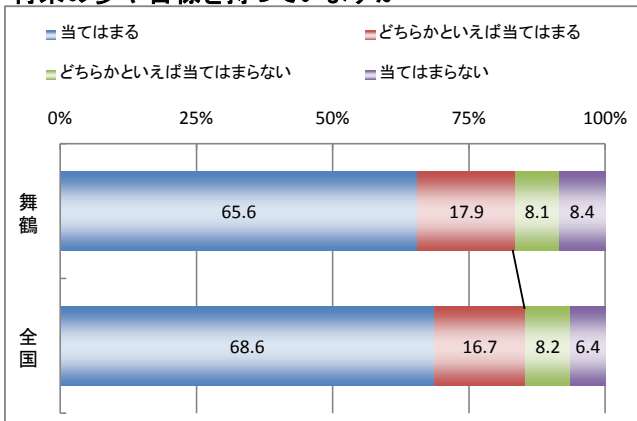
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)



将来の夢や目標を持っていますか



第 1 回学校支援ネットワーク会議 要項

1 開会挨拶（委員長 校長）

2 平成 29 年度学校支援ネットワーク体制の確認

委員長	福島 イツヨ	中筋子育て支援協議会 会長
委員	藤本 洋一	中筋小学校 P T A 会長
委員	藤本 智子	中筋ジュニアスポーツ振興会 会長
委員	竹内 優	中筋自治連合会 会長
委員	橋本 安彦	中筋老人会 会長
委員	生橋 勝矢	中筋文化協会 会長
委員	中道 玲子	主任児童委員
委員	桜井 ひろ子	民生児童委員
委員	星見 佑	前中筋小学校 P T A 会長
顧問	白石 明	前中筋子育て支援協議会 会長
顧問	森信 憲司	中筋小学校 校長
事務局	亀井 敬介	中筋小学校 教頭
事務局	河北 格	中筋小学校 教務主任
事務局	卯瀧 美奈	中筋小学校 教務

3 学校支援ネットワーク立ち上げの経緯

(1) 校区の変容、時代の変容

- ・ 農業が盛んな中筋村 → 田畑が宅地に変わり、市内有数の大規模校である。
(5月10日現在 児童数611名 学級数25学級)
- ・ 平成14年度より週五日制が完全実施となる。子どもたちが地域や家庭で過ごす時間は確実に増えた。
- ・ 学習指導要領完全実施のもと、学校・家庭・地域社会での教育や生活全体で子どもたちの「生きる力」を育み、健やかな成長を促すことが強調されるようになる。
- ・ 青少年の犯罪が年々増加する。平成13年より内閣府の事業の一つである「青少年育成国民運動実践調査研究」の研究実践校になる。

(2) 歴史ある校区の教育支援

- ・ 昔から教育に対して関心が高い地域である。
- ・ 教育後援会（平成6年～平成20年）
- ・ 設立30年をこえるジュニアスポーツ振興会
スポーツ教室5（野球、バレーボール、バトミントン、体操、サッカー）
文化教室（中筋サウンドハーモニー）
- ・ 放課後の居場所づくり「とんぼクラブ」5クラブ

(3) 子どもを育てる学校、家庭、地域の協働体制

- ・ 学習活動・体験活動の場や方法の広がり
- ・ 点としての教育から面としての教育へ
- ・ 学校、家庭、地域をつなぐ支援ネットワーク

4 ネットワーク推進プラン（別紙）

5 平成29年度事業構想

(1) とんぼクラブ

	バスケット ボール	親子で クッキング	折り紙教室	親子で トルパイント	陶芸	中筋サウンド ハーモニー
活動 日時	毎週火曜日 16:00～ 18:00	第4水曜日 15:00～ 17:00	第4木曜日 15:50～ 16:50	第4水曜日 15:15～ 16:45	5月17日(火) 9月12日(火) 1月16日(火)	毎週土・日曜日 (第2日曜は 休み) 10:00～ 12:00
活動 場所	中筋小学校 体育館	中筋小学校 家庭科室	中筋小学校 図工室	中筋小学校 図工室	中筋小学校 図工室	中筋小学校 第2音楽室
指導 者	真下博人さん 村田人史さん	谷口久美子さん	見附節子さん	小柴真由子さん	高井晴美さん	田中政次さん 速水秀和さん 他9名
入部児童	37名	7名	6名	6名	その都度募集	7名

○ ロボット研究室

活動日時・・・水曜日（土曜日、日曜日）

活動場所・・・情報ルーム

指導者・・・北原 達正先生

理科離れをなくす会のみなさん

*準備が整い次第、活動を実施します。

(2) クラブ活動まちの先生 (年間9回を予定)

クラブ名	クラブ員	まちの先生
① バスケットボール	10	眞下博人先生・村田人史先生・川井千歳先生
② サッカー	24	
③ いい汗ながそう	10	足立恵美子先生・村尾恵美子先生
④ サイエンス	21	坂根康弘先生
⑤ マジック	12	山本静雄先生・足立美知子先生
⑥ パソコン	25	西村英里子先生 (ICT サポーター)
⑦ クッキング	20	はまなす会 (代表: 林 和代先生)
⑧ 茶道	12	水嶋静野先生・生橋加代子先生・高橋裕美先生
⑨ 将棋・囲碁・チェス・オセロ	14	松本吉人先生・村上俊英先生・福田テレシタ先生
⑩ 手芸	16	藤居津久思先生
⑪ ビーズ教室	14	福島イツヨ先生
⑫ 工作	19	高田久栄先生・小谷要一先生
⑬ 絵画・まん画	16	
⑭ 大正琴	6	田中美香子先生
⑮ 音楽	11	土淵みゆき先生・高辻真紀先生
⑯ 英語	11	田中萌恵先生・村田功成先生・レベッカ先生 (ALT)
⑰ 生け花	13	平林とみ子先生
⑱ ドッジボールクラブ	23	
⑲ たんけんクラブ	16	

5月26日 6月16日 7月14日 9月8日 10月20日 11月17日

12月8日 1月19日 2月2日の年間9回実施

(3) モニターアンケート

(4) PTA・子育て支援協議会等との連携

6 平成29年度予算案 (別紙)